

希望の灯りをともそう

—テラコッタ粘土によるキャンドルランタンづくり—

1. 設定理由

本校は、意欲的に授業にとりくむ生徒が多く、お互いに協力して活動することにも抵抗がなく、全体的にまじめにこつこつととりくむ雰囲気がある。作品制作の際も丁寧にじっくりと作業を行う生徒がほとんどである。しかし、その一方で、発想の段階で考えやアイデアがまとまらなかったり、思い浮かばなかったりと手が止まり、授業時数の中で作品を完成させられない生徒も多い。そこで、生徒が小学生の頃から慣れ親しんできた粘土を素材とした作品制作を題材として、学習活動を工夫し、実践することで生徒の豊かな発想を促したいと考え、本主題を設定した。

2. 研究仮説

- 作品制作の前に、いくつかの粘土体験を行うことで基礎・基本と可塑性や技能を高められ、豊かな発想力をつけられるであろう。

3. 研究内容

- 「希望の灯りをともそう ～テラコッタ粘土によるキャンドルランタンづくり～」
 - ・制作の前に大きなボール、タワー、ひも、簡単な土器を作らせることで基礎的な技能を高め、作品作りの発想につなげる。
 - ・たたら板やピザカッター、ニードルなどの多様な種類の道具を使うことで、子どもの造形的な発想を広げる。

4. 結論

- いくつかの粘土体験と多様な種類の道具を使う体験から、生徒は粘土の可塑性や道具の使い方を理解し、作品作りへの発想につなげることができた。

1. 研究主題

希望の灯りをともそう

—テラコッタ粘土によるキャンドルランタンづくり—

2. 主題設定の理由

本校は、意欲的に授業に取り組む生徒が多く、お互いに協力して活動することにも抵抗がなく、全体的にまじめにこつこつと取り組む雰囲気がある。作品制作の際も丁寧にじっくりと作業を行う生徒がほとんどである。しかし、その一方で、発想の段階で考えやアイデアがまとまらなかったり、思い浮かばなかったりと手が止まり、授業時数の中で作品を完成させられない生徒も多い。そこで、生徒が小学生の頃から慣れ親しんできた粘土を素材とした作品制作を題材として、学習活動を工夫し、実践することで生徒の豊かな発想を促したいと考え、本主題を設定した。

3. 研究仮説

○作品制作の前に、いくつかの粘土体験を行うことで基礎・基本と可塑性や技能を高められ、豊かな発想力をつけられるであろう。

4. 研究内容

- 「希望の灯りをともそう ～テラコッタ粘土によるキャンドルランタンづくり～」
- ・制作の前に大きなボール、タワー、ひも、簡単な土器を作らせることで基礎的な技能を高め、作品作りの発想につなげる。
 - ・たたら板やピザカッター、ニードルなどの多様な種類の道具を使うことで、子どもの造形的な発想を広げる。

5. 研究の実践

(1) 題材名 希望の灯りをともそう ～テラコッタ粘土によるキャンドルランタンづくり～

(2) 題材について

本題材では、テラコッタ粘土を用いたキャンドルランタンの制作を行う。生徒が小学生の頃から慣れ親しんできた粘土を素材とすることで、抵抗感なく活動に取り組めるのではないかと考えた。中学1年生の美術の授業では、小学校の図画工作で培われたものづくりへの興味関心・意欲を基盤としつつ、より深く、主体的に主題について考え、構想を練り、確かな技能を身につける活動へと発展させていきたい。粘土を使った造形は今まで慣れ親しんできたという安心感があり、子どもたちにとって取り掛かりやすく、魅力的な題材となるのではないかとと思われる。

本題材では、デザインを発想・構想する前に、以下の活動を行う。まず道具を使わず、手

や指を使って粘土の手触りや可塑性を味わわせる活動を行う。粘土を柔らかくしつつ、自由に形を作らせた後に、以下の①～④の活動を実施する。

- ①大きなボールをつくろう②ボールでタワーをつくろう③ひもをつくろう
④土器をつくってみよう

以上の活動からタワーやひもの長さをクラスの中で競争させたり、工夫が見られる生徒を紹介したりと楽しみつつ、自然と粘土の感触や可塑性、ひもづくりやたまづくりといった技法に触れられるようにする。

その次の授業で、道具を使って粘土遊びを行う。粘土ペラ(かきべら3種、つげべら4種)、たた板、切り糸のほかに、ピザカッター、ピン、ストロー、ニードルといった道具を用意した。すべての道具を使用するというルールを設け、以下の①～③の活動を実施する。

- ①板をつくってみよう②板に模様をつけよう③板でタワーをつくろう

この際、板づくり等の基本の技法の手本を見せるが、特に道具の使い方に制限を付けず、自由に使用させ、道具の効果も実感させるようにする。このような粘土遊びを十分に行った後に、自分にとっての希望のかたちを構想させ、キャンドルランタンのデザインを考えさせるようにする。

これらの活動を行うことで、自分のキャンドルランタンの形を発想・構想の手がかりにさせたい。また、「粘土遊び」という表面的な楽しさではなく、自己実現していく充実感を伴った喜びを実感させるとともに、自分らしい表現に気づかせ、また形や素材・光のもつ魅力も実感させたい。

(3) 生徒の実態(男子19人、女子15人、当日欠席4人、計30人) 調査日5月1日(月)

1 図画工作・美術に対する興味・関心について			
①絵を描くことが好きだ	はい 14人	いいえ 6人	ふつう 10人
②工作が好きだ	はい 17人	いいえ 3人	ふつう 10人
③図工の授業が好きだった	はい 17人	いいえ 5人	ふつう 8人
④図工は得意だった	はい 18人	いいえ 12人	
⑤絵を見て感動したことがある	はい 16人	いいえ 14人	
2 粘土についての経験・意識について			
①粘土で何かつくるのは好きだ	はい 10人	いいえ 2人	ふつう 18人
②どんな作品をつくりましたか	自分の顔、家、動物、お菓子、茶碗、城、生き物、皿、花、将来の自分 など		

3 キャンドルについての知識・経験・イメージについて

①ロウソクを使ったことがある	ある 27人 ない 3人
②夜ロウソクの灯りだけで過ごしたことがある	ある 19人 ない 11人
※「ある」の人は、どんな時でしたか？ <u>停電、震災時、キャンプ、誕生日、など</u>	
③生活の中でたまにはロウソクを使ってみたい	はい 19人 いいえ 11人
③ロウソクの灯りは美しいと思う	はい 23人 いいえ 7人

4 「つくりたい」とおもう作品はどれですか？数字に○を付けてください。(複数可)

- | | |
|--------------------|-----|
| ① 自分の気持ち・感情を表す作品 | 10人 |
| ② 役に立つ使える作品 | 20人 |
| ③ リアルで上手な作品 | 17人 |
| ④ 楽しく人をおどろかせるような作品 | 13人 |
| ⑤ できれば何も作りたくない | 1人 |

【考察】

- ① アンケートの結果から絵や工作よりは、粘土に対する意欲が低いことがわかった。粘土制作に苦手意識を持つ生徒と、どちらでもないと答えた生徒それぞれにその理由を聞いたところ、小学生の頃使用した油粘土の感触やにおいに抵抗感をもっていることがわかった。土粘土を使った作品づくりを行ったことがある生徒は、4つある出身小学校のうち1校の出身者のみであった。油粘土とは異なるテラコッタ粘土の感触や性質は多数の生徒に驚きをもたらすと考えられる。新たな素材に対する興味・関心から、生徒は意欲的にテラコッタ粘土と触れ合う活動にとりくみ、自分なりの表現を見つけていくのではないかと思われる。
- ② ろうそくの使用経験をみると、台風や震災の際の停電時、家族で行ったキャンプや誕生日パーティと回答する生徒が多かった。非常時の命綱であり生きるために必要な光というイメージと、キャンプや誕生日といった家族の団らんを想起させることがわかった。このろうそくの炎のもつライフライン的なイメージと家族の団らんのイメージは、本題材のテーマである「希望」のイメージにつながるものであると思われる。粘土と触れ合う活動で得た技能と家族に関係する形を組み合わせた作品が作り出させることが予想できる。

(4) 題材の目標

関心・意欲・態度	<ul style="list-style-type: none"> ・粘土の感触を楽しみながら、制作の意欲をもつことができる。 ・粘土や光の効果、イメージの具体化に興味関心をもって、粘り強く最後まで自分の作品を追及することができる。
発想や構想の能力	<ul style="list-style-type: none"> ・用途を考え、作例や自分が選んだ言葉のイメージから目的とする形を発想しアイデアを生み出すことができる。
創造的な技能	<ul style="list-style-type: none"> ・何度も試行錯誤しながら、用具や技法を工夫して用途に適した自分のイメージする作品を追求することができる。
鑑賞の能力	<ul style="list-style-type: none"> ・作例や友たちの作品の良さや工夫したところに気づき、自分の作品に生かすことができる。

(5) 指導計画 (15時間扱い)

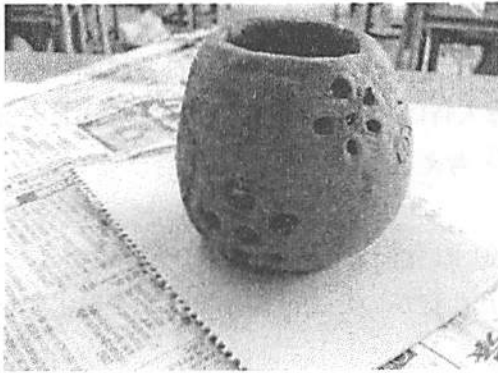
時配	目標	学習活動と内容	手立て
2	<ul style="list-style-type: none"> ・興味関心を持って話を聞こうとしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・キャンドルランタンについて理解する。 ・テラコッタ粘土について理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・参考作品(実物と使用中の写真)を提示する。 ・実際の作品を触らせて、テラコッタ粘土について説明する。
6	<ul style="list-style-type: none"> ・意欲的に粘土で形をつくらうとしている。 ・道具の使い方について工夫している。 ・技法を理解し、試そうとしている。 ・形や大きさ、使い方などを考え、作品のイメージを作り上げる。 ・試行錯誤して意図する形を作ろうとしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・粘土に触れ、素材の持つ魅力を味わう。 ・様々な道具の使い方を工夫する。 ・様々な技法を学び立体表現の可能性を広げる。 ・アイデアスケッチを行い作品のイメージを明確にする。 ・アイデアスケッチを頼りに、粘土を使って試作をする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・粘土でボール・ひも・板によるタワーづくりを行う。 ・道具の掲示物で、使い方を明示する。(たたら板・切り糸・かき出しへらなど) ・板づくり・ひもづくり・型押しの手本を見せて、技法について知らせる。 ・様々な立体の図を見せる。 ・道具や技法の掲示物を見せる等、個別の指導を行う。

6	<ul style="list-style-type: none"> ・粘り強く作品を作り上げようとしている。 ・効果的な技法や道具を選択して作ろうとしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・技法やアイデアスケッチ、試作から膨らんだイメージを手がかりにして、粘土で自分の求める形を作りあげる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・道具や技法の掲示物を見せるなどの、個別の指導を行う。
1	<ul style="list-style-type: none"> ・お互いの作品のよさについて肯定的に理解しようとする。(観察) 	<ul style="list-style-type: none"> ・相互鑑賞し、それぞれの良さや個性を見つける。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ワークシートにキーワードを多く用意し、選ばせるようにする。

6. 成果と課題

【成果】

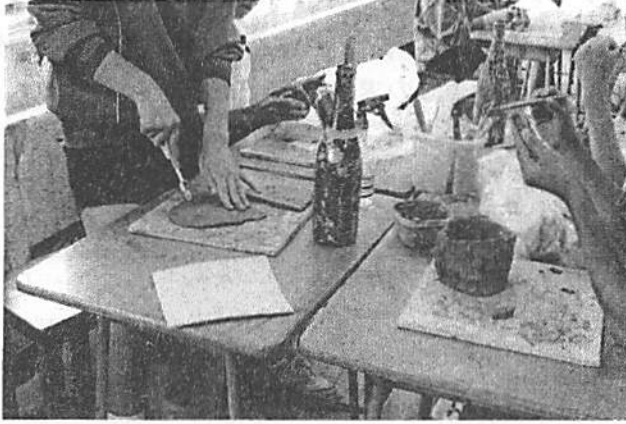
制作前の粘土体験を通して多くの生徒が、板づくりや玉づくりといった技法を念頭においたデザインを考えていた。



また、ブロック状や板状にした粘土を重ねて家をかたどった作品や、貼りつけの技法を用いて部活のユニフォームをかたどった作品もみられた。



このように粘土体験で行った技法を応用して、自身の夢や家族の団らんをモチーフにしたデザインを発想し、作品制作する生徒も見られた。一方で、ニードルやへらで表面に模様を描いたり、光がもれる細い穴をあけたりと多様な道具を使う体験の影響がみられる作品もあった。



以上から、作品制作の前に、いくつかの粘土体験を行うことで基礎・基本と可塑性や技能を高められ、豊かな発想力をつけられたといえる。

【課題】

- ・ 参考作品の一つとして円筒形の作品を提示したところ、テーマや細部のデザインは異なるものの、円筒形を基調としたデザインを考える生徒が多かった。円筒形以外には、家や花といった具体物をそのまま作品にする生徒もいた。本題材では、具象・抽象は問わなかったが、今後、粘土と触れ合う活動以外にも題材の導入時には、抽象形の粘土作品の鑑賞を充実させ、より豊かな発想を促すとりくみを行いたいと考える。
- ・ 自分にとっての美しい形、おもしろい形の追求に終わり、テーマである「希望」についてあまり考えないまま、作品を完成させてしまった生徒がいた。今後はテーマを追求する時間を十分に確保していきたい。

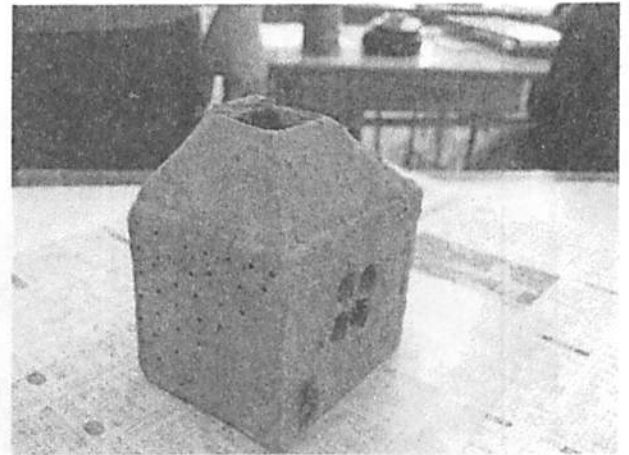
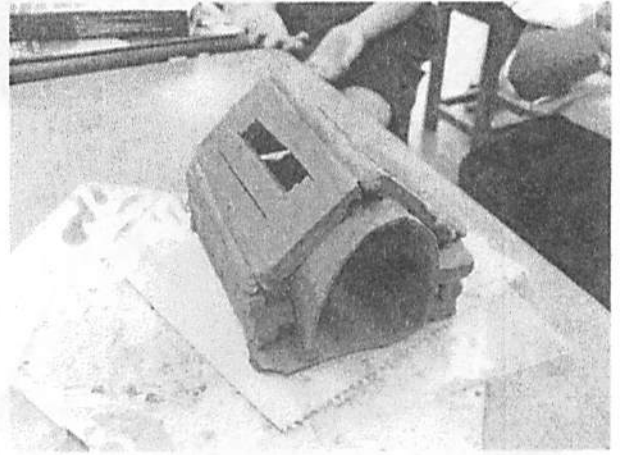
資料

【 作 品 】

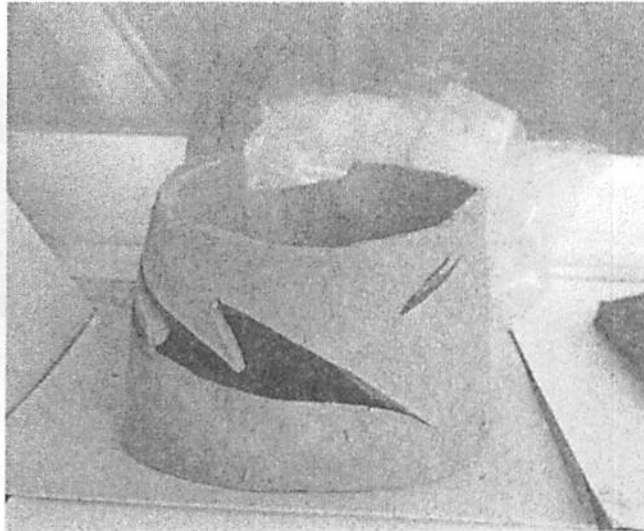
自分の夢をイメージした作品



家族団らんをイメージした作品



抽象形を用いた作品



具象形を用いた作品

